

「インテリジェント・デザイン」の正しい理解のために

自然は超自然を前提とする、唯物論・無神論は中立などではない

Greatchain

2018/08/0

我々はサタンという霊的存在が実在することを知るに及んで、いろんなことがわかってきた。我々は誰でも、(人間をただ殺すのでなく、支配するために) サタンの欲しがる、魂をもっているということがわかってきた。魂も(永続する)生命も自然発生することはない。神(創造者)からきたものとしか考えられない。私は前の稿で、唯物論や無神論は決してニュートラルな立場でなく、サタンに自分を明け渡す条件を与えるものだ、ということを書いたかった。しかし有神論と言っても、納得のいく有神論でなければならない。世間によくある、本質は無神論者である者が、にわか入信するような信仰は話にならない。

30年ほど前、ある人が私の話を聞いた後でこう言った：——「神が創ったなどというけれども、そういうものではないでしょう。ほっといたら自然に我々のようなものができたんだよ。」彼がそう言ったときの絶対的確信が印象的だったので、それ以来、私はこれを「ほっといたらデキチャッタ説」として、よく紹介した。これこそダーウィン進化論といわれて、教科書などを通じて、我々に刷り込まれてきた、間違った唯物論宇宙観である。

現在、少し進歩した言い方に言い直せば、「神とか創造者とか、インテリジェンスとかデザイン——意志、計画、構想、目的——とかいったものは存在しないんだよ、したがって、この宇宙には意味も価値もなく、我々には決まった生き方も、善悪もないんだよ、ばか言ってるじゃねーよ」ということになるだろう。

そういうことを言う人は、「インテリジェント・デザイン」理論の、何本かの柱の1つに、「宇宙的微調整」Cosmic Fine-Tuningといわれる、驚くべき事実があることだけでも、知っておいていただきたい。我々の生きているこの宇宙は、その基本的な物理常数(重力や光速など)や基本的な物質の性質(元素や水など)を、初めから、人間や人間の生きる環境を生み出すように、信じられぬほど絶妙に微調整されている。その無数にある常数や物性のたった1つを、ごくわずかに変えただけでも、我々にはここにはいない。——これは要するに、**自然は超自然を前提としている**ということである。その論証の方法はこれだけではない。

(参考文献：『意味に満ちた宇宙』『ダーウィニズム 150 年の偽装』

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180320.pdf>)

私はこれを、「勝手にデキチャッタ理論」すなわち、ダーウィン進化論を打ち砕く、ID 理論の 3 つの柱の 3 番目に置いた。注意していただきたい。これは、無神論を咎めて、キリスト教やイスラムの神を信ぜよ、という話では全くない。ここで神という言葉さえ使う必要さえない。この事実は、**自然を越えたものへの畏敬**の念だけを要求する——まさに、我々は「生かされている」と言われる事実を、ここで確認することができる。

もし ID 理論が、それを軽蔑し無視する多数の学者が、これを曲解して（あるいは、本さえ読まずに）宣伝するように、これが最初から神を想定する理論であるなら、それは無意味であり、「追放」されてしかるべきである。しかし、この一つの論証だけから見ても、ID はそういうものではない。

ベン・スタインの映画『追放——インテリジェンスは許さない』Expelled – No Intelligence Allowed を見れば、いかに、ダーウィン進化論に反対することが、今の学界では罪になるのかがよくわかる。唯物論でなければ学問ではないというのは、サタンに仕える者たちが用意周到に作った掟である。彼ら自身は、そんなものは信じていない。それは彼らの、人間支配の道具である。万一、唯物論信仰が崩れたら、彼らが我々を閉じ込めておく牢獄が崩れたことになる。そして、その牢獄がいまだに健全だとすれば、それはサタンに協力し、自ら科学の足を引っ張る科学者が、いかに多いかを証明する。

これは政界や宗教界のトップで、ペドフィリア・カルテルが運営されているのと、非常によく似ている。彼らはその掟が破られることを恐れるあまり、違反者を厳しく処罰する。彼らにとって同じように危険な、ホーリズムに基づく医療家のように、殺しはしないようだが、学界から追放するというのは、殺すのと変わらない。彼らは神に復讐して、ペドフィリアを“ノーマライズ”すると同じように、破綻した無神論（疑似）科学を強制して、これを破る革新的な試みの芽を摘み取ろうとしている。ID 攻撃者の中でも、「自然選択」を、自然を手なずける“武器”だなどと言う科学者（L・サスキンド）は、彼ら神を敵とするサタンどもにとって、お気に入りのはずである。

はっきりは知らないのですが教えていただきたいが、ロシアでは、無神論が科学の前提にはなっていないようである。また、ニコラ・テスラの言葉に、「科学が、形を持たないものを排除せず、取り入れていたら、数百年かかったことを、20 年で成し遂げたであろう」というのがある。（そのために彼は“干される”立場になった。）

読者は気づいておられるかどうか知らないが、十数年前までは、有名国立大学のダーウィン進化研究者が、ダーウィン説の正しさを実証する**かもしれない**と思われる、ゲノム配列の事実などを発見すると、まずNHKニュースが飛びつき、新聞がこれを報ずるという騒ぎになることがよくあった。これはさすがに最近はなくなった。おそらく、そのようなテーマでは研究費が下りなくなったのであろう。これは、唯物論洗脳装置としての「メディア - 学界」共同体の存在を思わせ、少し痛ましいがよいことである。ただNHKの、名前だけの「ダーウィンがきた」が残っている。

唯物論・無神論は、かつて考えられたような、科学的に中立の思考枠組みではない。